

2023年8月14日(月)

老球の細道745号

その気にさせる黄金の道筋

会津バスケットボール協会 室井 富仁

熱中症警戒アラートが出て不思議でない猛暑の中、甲子園の高校野球に負けない熱気で会津地区ミニバスケットチビッ子大会が先週開催された。

ちびっこ大会は小学1、2年生を「マイクロミニ」、3、4年生を「フレッシュミニ」と称して、2つのカテゴリーで行われた。マイクロミニはトラベリング、ダブルドリブルなどを大目に見てのゲームで、ボールの取り合いでバトルする場面も続出だった。想像してみると、最初にバスケットボールが創案された時のゲームはこんな感じだったのかもしれない。しかし、シュートはかなり上手であった。ワンハンドでアウトサイドシュート、走りながらのドリブルランニングシュートなど平気でこなしているのにはびっくりした。

スポーツの世界では、幼少から始めると、とかくバーンアウト(燃え尽き症候群)が危惧される。せっかく大人顔負けのプレイができるようになり、末は博士か大臣かNBAかと周囲から騒がれながら、ある日突然「お先に失礼します」とリタイアしてしまうケースを今まで何度も見て、聞いてきた。子どもたちには長い間バスケットボールを続けてほしい。

子どもたちは下記のプロセスで「やる気」が進化していくという。

①見てみたくなる②聞いてみたくなる。ここまでが「衝動の時代」。次に③やってみたくなる④できるような気がする。これは「自己発見の時代」。「やる気前期」である。現在マイクロミニで頑張っている子どもたちの状況であろうか。①から④までの道筋には指導者の人間性が深く関わっており、指導者の人柄や保護者、子どもたちからの信頼が大きく影響する。

⑤なんとか、出来るようになったけど・・・⑥もう少し、やってみようかな。この時期は「進退岐路時代」と言われ、試合で負けたり、失敗ばかりしていたり、またはバスケット以外のことに興味を持ち始めたりした時に「もうやめようか」と悪魔のささやきが聞こえ始める時である。悪魔を退治するには、成功体験や最高のプレイに触れさせる経験が大切になる。

⑦自分で効果がわかるようになる⑧他の人も認めてくれるようになる。この時期は「励みの時代」と言われる。試合で良いプレイをするためには努力しなければならないことが理解でき、良いプレイをすれば周囲が自分を認めてくれて自尊感情が高まる。

⑨その先に進みたくなる⑩そのための努力自体が楽しく、苦しみは苦しみでなくなる。この時期が最終段階で「定着の時代」と言われる。どんどん上を目指して自ら努力することを厭わなくなってくる。現在のトッププレイヤーは皆例外なくこのレベルである。

⑤から⑩までの道筋は「やる気後期」で、指導者の人間性に加えて指導者の専門性が子どもへの関りに重要な要素となる。バスケットの専門性のみならず、スポーツ指導者としての専門性も持ち合わせなければならない。

黄金の卵を順調に孵化させるには、子どもたちに対する限りない愛情と信頼を持つこと。そして指導者のマンネリ化を及ぼす自己過信と不勉強を絶対に避けなければならない。